

アドミッションポリシーと入学者の選抜方法には
何を含めることが望ましいのだろうか
What should be included in the admission policy
and the selection of students for enrollment?

東京医科大学, 多磨全生園
大滝純司

日本医学教育学会大会 COI開示

筆頭演者名：大滝 純司

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

内容概略

- 将来医師になる人の資質に関する意識調査
- 医学科の入学者選抜の目的からの検討
- アドミッションポリシーに関する文科省の指針
- 今後の課題

内容概略

- 将来医師になる人の資質に関する意識調査
- 医学科の入学者選抜の目的からの検討
- アドミッションポリシーに関する文科省の指針
- 今後の課題

意識調査：目的

研究の目的

医学科の入試では何を測定すればよいのか？

医師養成の利害関係者として、医療の受益者であり、その費用を負担する立場にもある一般住民の意識を調査する。

意識調査：方法

方法

構造：質問紙調査による横断研究

調査対象：全国15～79歳の住民1,200人

調査機関：2020年11月～12月

標本抽出方法：住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割り当て

標本数の配分：200地点（1地点6標本）を地域・市郡規模別の各層に比例配分

調査方法：契約調査員による個別訪問留置き調査

標本構成（n=1,200）

地域：北海道・東北／関東／中部・北陸／近畿／中国・四国・九州
11.0％／37.0／16.0／16.0／20.0

都市規模：大都市／人口15万以上／15万未満／郡部 29.0／31.5／31.0／8.5

性別：男性／女性 49.3／50.7

年齢：15～19歳／20代／30代／40代／50代／60代／70代
6.2／12.3／15.6／18.4／15.5／18.7／13.3

意識調査：質問項目

質問項目

各大学のアドポリ, 国際シンポ, 先行研究などを検討し作成

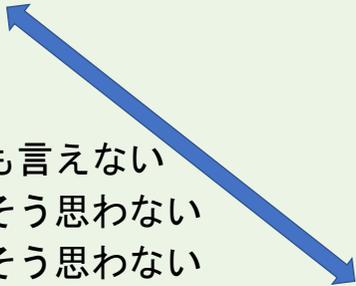
質問「将来医師になる人の資質として何が重要だと考えますか？」

- ・ コミュニケーション能力が高い
- ・ 状況を的確に判断できる
- ・ リーダーシップがある
- ・ 精神的ストレスに強い
- ・ 身体的に丈夫である
- ・ 弱い立場の人に配慮できる
- ・ 思いやりがある
- ・ 社会に貢献したい気持ちが高い
- ・ (入試偏差値として示される) 学力が高い
- ・ 芸術やスポーツなどの一芸に秀でている
- ・ 医療や福祉の実際を理解している
- ・ 病気や障害の経験がある
- ・ 社会人として勤務した経験がある
- ・ ボランティアとして活動した経験がある
- ・ 医師不足の地域で生活した経験がある
- ・ 行事や課外活動などで活躍した経験がある

意識調査：回答型式

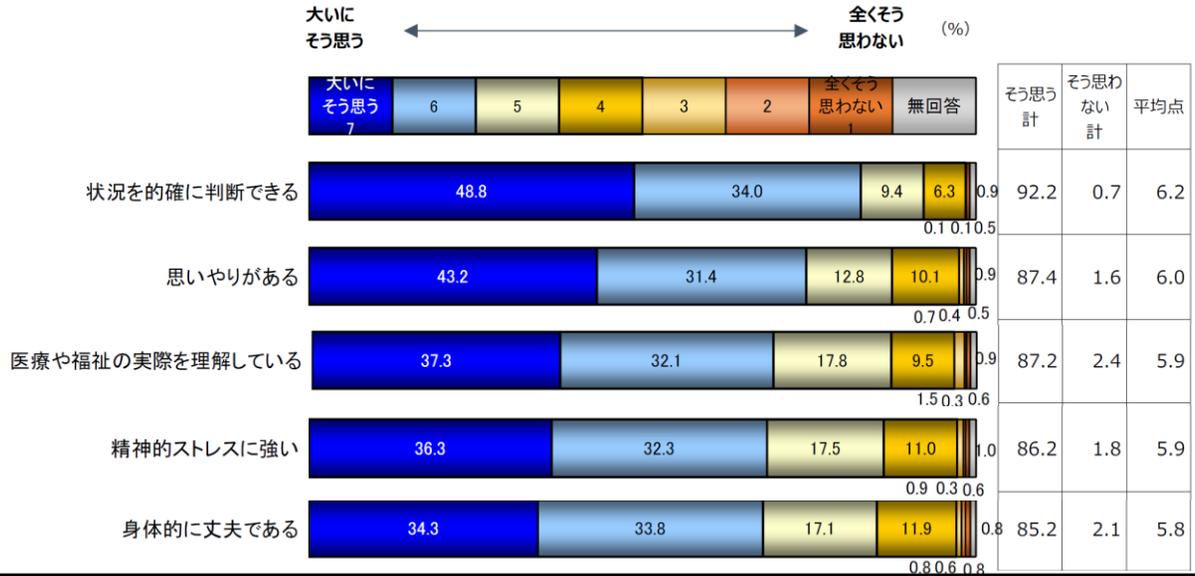
回答型式

7段階のリッカート尺度

- ・ 大いにそう思う (7点)
 - ・ そう思う
 - ・ ややそう思う
 - ・ どちらとも言えない
 - ・ ややそう思わない
 - ・ そう思わない
 - ・ 全くそう思わない (1点)
- 

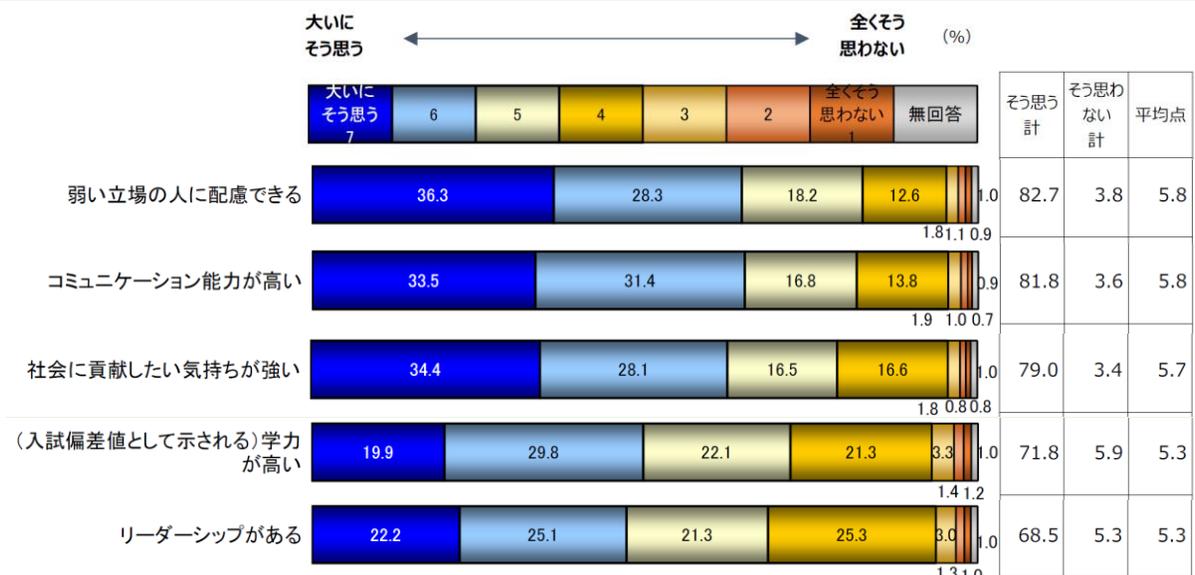
意識調査：結果

結果（将来医師になる人の資質として重要な点）



意識調査：結果

結果（将来医師になる人の資質として重要な点）



内容概略

- 将来医師になる人の資質に関する意識調査
- 医学科の入学者選抜の目的からの検討
- アドミッションポリシーに関する文科省の指針
- 今後の課題

入試の目的：3つの項目

医学科の入学者選抜の目的

← どのような事項が含まれるだろう？

入試の目的：3つの項目

医学科の入学者選抜の目的

← どのような事項が含まれるだろう？

- (1) 入学後の学習についていける**学習能力の確認**
- (2) 医師となる人材としての**資質の確認**
- (3) より多くの有為な人材を**受験へ誘導**

入試の目的：学習能力の確認

入学後の学習についていける**学習能力の確認**

入試での学力試験の成績 ↔ 入学後の成績や国試の合否

相関は弱い

学力試験の成績は足切りに使うのが妥当かもしれない

国試合否からみた高校・入試・在学成績の評価¹⁾

岡本 幹三²⁾ 中山 英明³⁾ 能勢 隆之³⁾



表 2 国試合否別にみた入学時および入学後の学業成績の比較

	合格	不合格	検定
高校調査書 ¹⁾	n=289	n=59	
国語	4.00±0.62	3.67±0.55	***
社会学	4.07±0.60	3.71±0.51	***
数学	4.49±0.57	4.11±0.62	***
理科	4.26±0.58	3.95±0.49	***
英語	4.34±0.63	4.09±0.75	**
総合点	21.16±2.53	19.53±2.34	***
共通一次成績 ²⁾	n=290	n=54	
国語	77.5±8.60	77.1±7.06	NS
社会学	75.5±8.41	74.5±8.25	NS
数学	95.4±6.59	94.4±8.10	NS
理科	81.8±10.0	77.1±9.90	**
英語	76.8±8.38	78.0±7.72	NS
総合点	407.0±19.01	401.1±16.65	*
二次試験成績 ³⁾	n=291	n=63	
平均点	63.4±10.34	62.0±10.69	NS
入学後の成績	n=293	n=66	
医進	664.2±40.18	628.3±37.61	***
専門1	71.1±6.45	63.8±2.87	***
専門2	72.7±6.69	64.7±3.31	***
学試	74.7±4.56	67.4±3.11	***
再試験回数	4.2±4.87	17.0±9.57	***
留年率(%)	14.5	48.5	***

入試の目的：資質の確認

医師となる人材としての資質の確認

従来の面接や小論文では…

← 測定が困難という指摘が多い

Research Report. Identifying best practice in the selection of medical students (literature review and interview survey). GMC 2012.



そもそもどのような資質を測ることが妥当なのか？

← 前述の調査結果を根拠の一つに

入試の目的：受験への誘導

より多くの有為な人材を受験へ誘導

受験科目や試験日などによる工夫が行われているが…

← 医学科受験者数は18歳人口の減少を上回る速さで減少

入試の目的：受験への誘導

医学部医学科受験者数の減少

<18歳人口>

120万人（2011年） 114万人（2021年） 約5%減

<医学科入試受験者数推計>

近似値：国公立大学の前期試験（河合塾発表）

19,023人（2011年度） 14,773人（2021年度） 22.3%減

減少傾向は10年間ほぼ継続

入試の目的：受験への誘導

医学部医学科受験者数の減少

<18歳人口> 約5%減



この差が生じている原因は何か？

<医学科入試受験者数推計> 22.3%減

医師を目指す進路をあきらめる者が増えている可能性

 経済格差, 地域格差, 教育格差の影響か？

入試の目的：受験への誘導

医学部医学科受験者数の減少

目的: 医学科進学を妨げる要因の検討

方法: 高校の進路指導教員への質問紙調査

結果: 1746校の内1094校から回答

PLOS ONE

PUBLISH ABOUT BROWSE

OPEN ACCESS PEER-REVIEWED
RESEARCH ARTICLE

Factors that hinder medical career aspirations: A nationwide questionnaire survey of teachers in charge of career guidance in Japanese high schools

Junji Otake, Kikuko Taketomi, Machiko Shibahara, Yoko Watanabe, Shizuko Nagata-Kobayashi, Yoshimi Harada, Hiroshi Mitoma

Published: June 24, 2022 • <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0270477>

- (1) 経済的に困難な家庭では医学科進学は困難 ← 66.8%が肯定
- (2) 都市部の居住者の方が医学科進学に有利 ← 61.2%が肯定
- (3) 経済的理由で医師の進路を断念した生徒がいる ← 42.9%が肯定



内容概略

- 将来医師になる人の資質に関する意識調査
- 医学科の入学者選抜の目的からの検討
- アドミッションポリシーに関する文科省の指針
- 今後の課題

アドミッションポリシーに関する 文科省の指針

中央教育審議会答申

大学入学者選抜実施要項

文科省の指針：中教審答申

(1) 各大学のアドミッション・ポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った大学入学者選抜の確立 ① 各大学の個別選抜

各大学は、求める学生像のみならず、各大学の入学者選抜の設計図として必要な事項をアドミッション・ポリシーにおいて明確化することが必要であり（中略）入学者に求める能力は何か、また、それをどのような基準・方法によって評価するのかを、アドミッション・ポリシーにおいて明確に示すことが求められる。現行法令上、アドミッション・ポリシーの策定が明確に規定されていない点も課題であり、法令上の位置付けを検討する必要がある。

出典：新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（平成26年12月22日）

文科省の指針：入学者選抜要項

令和5年度版文部科学省「大学入学者選抜実施要項」

基本方針（抜粋）

- 各大学が（中略）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき（中略）入学者に求める力を多面的・総合的に評価することを役割とするものである。
- 公正かつ妥当な方法によって、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。
- 年齢、性別、国籍、家庭環境等に関して多様な背景を持った学生の受入れに配慮する。
- 高等学校における適切な教育の実施を阻害することとならないよう配慮する。

出典：令和5年度大学入学者選抜実施要項
（令和4年6月3日付け 4文科高第302号文部科学省高等教育局長通知）

内容概略

- 将来医師になる人の資質に関する意識調査
- 医学科の入学者選抜の目的からの検討
- アドミッションポリシーに関する文科省の指針
- 今後の課題

今後の課題：実現可能性と効果

今後の課題

- 実現可能性
 - 学力試験以外の測定方法
 - 担当者やコスト
 - 学力の合否水準の設定
 - 一部になら導入できるか
- 効果の検証
 - 導入前後や他の入試方法との比較
 - 受験者の背景の把握
 - 受験対策, 進学校, 受験産業の動向調査



まとめ

- 対応能力, 理解, 配慮に関する資質が求められている
- 現在の入試の方法は根拠が脆弱
- 志望者減少に入試方法が関与している可能性
- 大学入試で受験学力や公平性を過度に重視する弊害
- 多様性に対応し門戸を広げる工夫を
- 方法の改善には様々な試みの研究と共有が重要

質問対応用追加資料

国際シンポジウム 「医学部入試の課題と改革」



2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」



特別発表 マギル大学の医学生選抜 —その新手法
 “Admissions at McGill University Faculty of Medicine”

ジョイス・ピカリング カナダ マギル大学医学部准教授

東京大学医学系研究科附属医学教育国際研究センター
 平成 25 年度招聘 特任准教授

Joyce Pickering, MD, FRCPC, FACP
 Interim Physician in Chief
 Department of Medicine
 McGill University Health Centre
 Montreal, Canada

Invited Project Associate Professor
 International Research Center for Medical Education
 Graduate School of Medicine, The University of Tokyo



How did we develop our stations?

MMIのステーションの設計方法

Physicianship のカリキュ
 ラムの個別の目標を

MMIの中に明確に
 組み入れて

入試選抜における
 個別の基準に

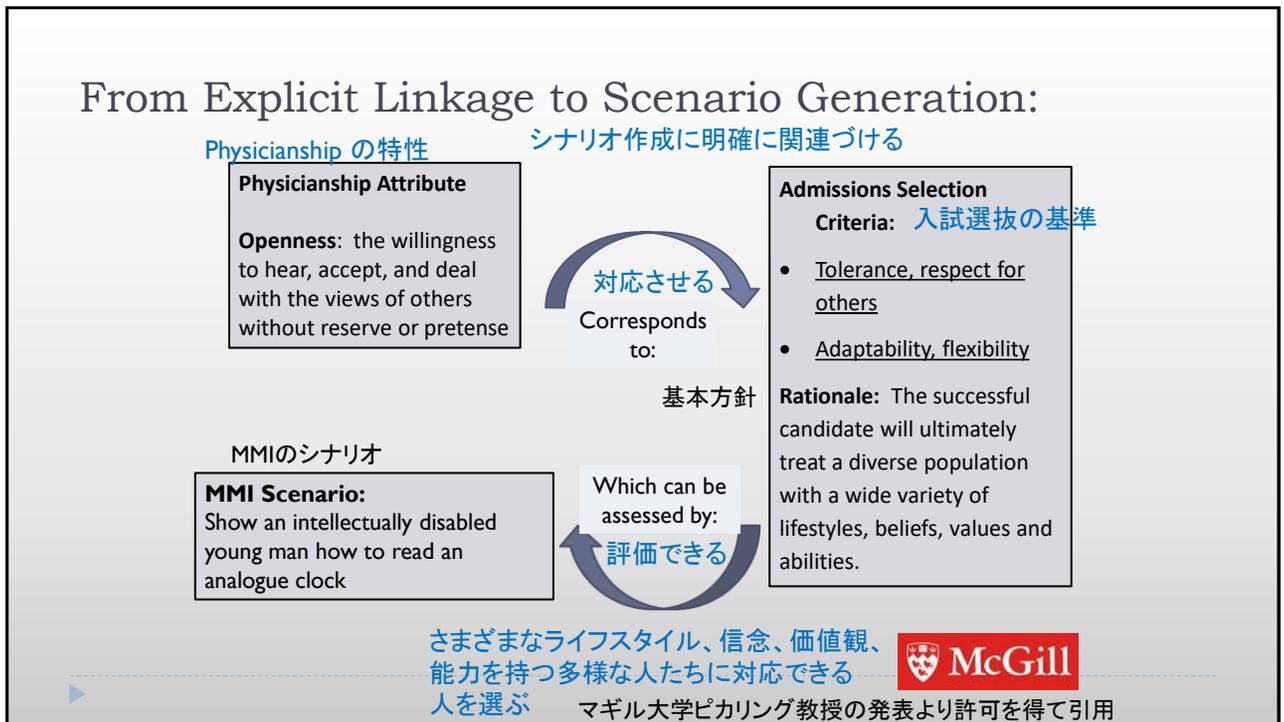
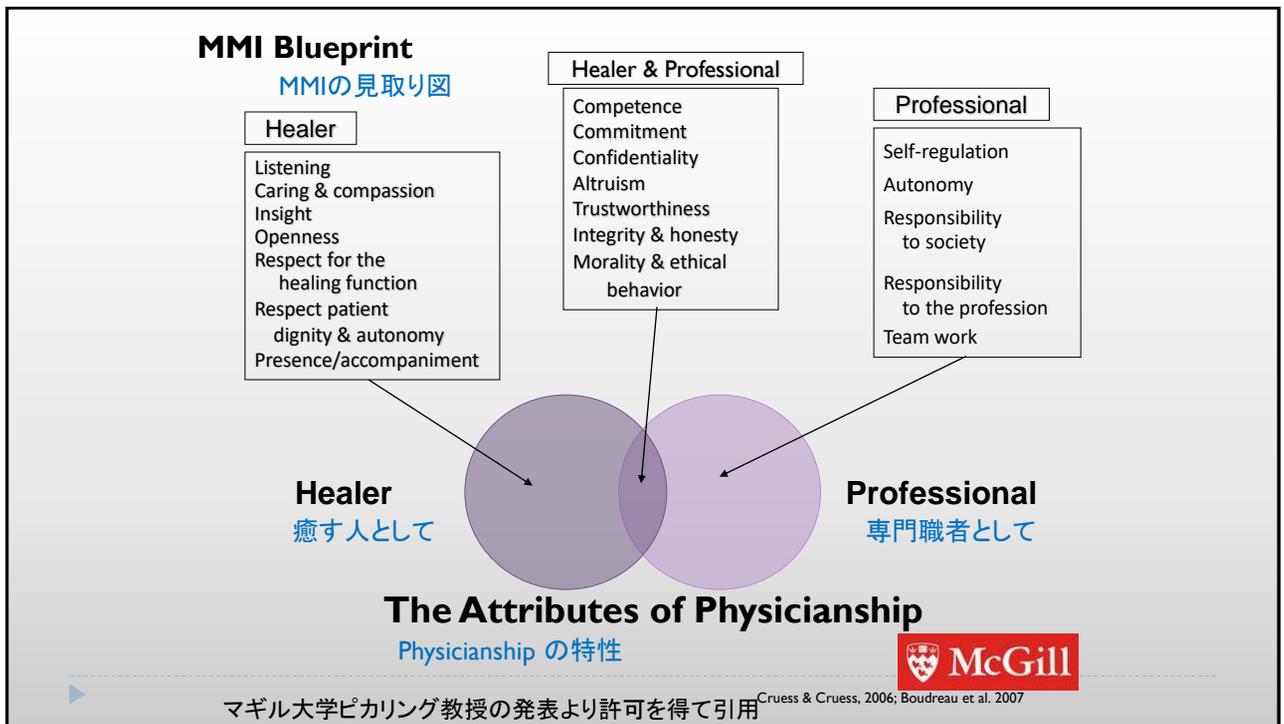
Specific
 Physicianship
 Curriculum
 Objectives

Explicit alignment
 through MMI

Specific
 Admissions
 Selection
 Criteria



マギル大学ピカリング教授の発表より許可を得て引用



北海道大学医学部医学科の 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- ▶ 1. 強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生
- ▶ 2. 積極性、堅実性とともにも他者との協調性をもつ学生
- ▶ 3. 多様な事象に対し興味、理解力をもち、共感とともに批判する能力をもつ学生

平成30年度一般入試 合格者の平均点等
配点合計：825
総合点：最高727.25 最低642.34 平均671.38
センター粗点平均点：804.79

北海道大学医学部医学科の入試情報(抜粋)

センター試験 5教科7科目(300点満点)

- ▶ 【国語】国語(80)
- ▶ 【数学】数IA必須、数IIB・簿記・情報から1、計2科目(60)
- ▶ 【理科】物・化・生から2(60)
- ▶ 【外国語】英・独・仏・中・韓から1[リスニング](60[12])
- ▶ 《地歴》世B・日B・地理Bから選択(40)
- ▶ 《公民》「倫理・政経」(40) ●選択→地歴・公民から1

個別学力試験 3教科(525点満点)

- ▶ 【数学】数I・数A・数II・数B・数III(150)
- ▶ 【理科】「物基・物」必須、「化基・化」・「生基・生」から1、計2(150)
- ▶ 【外国語】コミュ英語I・コミュ英語II・コミュ英語III・英語表現I・英語表現II(独・仏・中の選択可)(150)
- ▶ 【面接】(75)個別...面接は高校の調査書等を資料として参考にする

参照：旺文社大学受験パスナビ

演習：差別が容認されるのは？

- ▶ 性別
- ▶ 年齢
- ▶ 受験回数
- ▶ 出身地
- ▶ 国籍
- ▶ 母語
- ▶ 経済状態
- ▶ 宗教
- ▶ 犯罪歴
- ▶ 学歴
- ▶ 身長
- ▶ 筋力
- ▶ 持久力
- ▶ 高校の偏差値
- ▶ 高校の出席状況
- ▶ 親の職業
- ▶ 記憶力
- ▶ ボランティア経験
- ▶ 6年後の進路の約束
-

UK Equality Act 2010

(ケンブリッジ大学 柴原真知子先生より)

あらゆる差別に対して法的措置をとるための法律として立法・施行された。

- Age - Disability - Gender reassignment

- Pregnancy and Maternity - Race Religion or belief

- Sex - Sexual Orientation - Marriage and civil partnership

同法は、このように不平等を包括的に捉えることで、より公平かつ平等な社会を目指すものである。その意図から、「Public Sector Equality Duty」(PSED)が別途定められた(2011年4月施行)。これにより、医学部を含める高等教育機関や病院(NHS)などの公共機関は、差別是正に向けた取り組みが法的義務として課される。

メリトクラシーとペアレントクラシー

▶ メリトクラシー meritocracy

メリット (merit、「業績、功績」とクラシー (cracy、「支配、統治」) を組み合わせた造語。(中略) 個人の持っている能力によってその地位が決まり、能力の高い者が統治する社会を指す。(Wikipediaより抜粋)

▶ ペアレントクラシー

イギリス、カーディフ大学の教授P.ブラウンが1990年に提起した造語・概念。(中略) 特に教育達成度について、ペアレント (親・保護者) の教育への関心と積極的な教育支援 (家庭や学校外での学習環境の整備充実や学校情報の収集・提供と助言など) によって左右される社会の仕組みや規範をペアレントクラシーという。(imidasより抜粋)



選抜方法の質を検討する観点 (1)

妥当性 Validity, 一貫性 Coherence

- ▶ その評価結果を用いることが目的に適うという根拠は明快か

再現性 Reproducibility, 整合性 Consistency

- ▶ 同じ条件下で繰り返した場合に同じ結果が得られるか

等価性 Equivalence

- ▶ 同じ試験を異なる機関や回で実施した場合に得られる成績や判定は同等か

A Practical Guide for Medical Teachers (5th ed.) pp 254, 2017
Med Teach. 2011;33(3):206-14



選抜方法の質を検討する観点 (1)

妥当性 Validity, 一貫性 Coherence

- ▶ その評価結果を用いることが**目的に適うという根拠**は明快か

再現性 Reproducibility, 整合性 Consistency

- ▶ 同じ条件下で繰り返した場合に同じ結果が得られるか

等価性 Equivalence

- ▶ 同じ試験を異なる機関や回で実施した場合に得られる成績や判定は同等か

A Practical Guide for Medical Teachers (5th ed.) pp 254, 2017
Med Teach. 2011;33(3):206-14

選抜方法の質を検討する観点 (2)

実現可能性 Feasibility

- ▶ その環境や状況において、**实际的で現実的かつ賢明**か

教育効果 Educational effect

- ▶ 教育的に**ためになるような準備を受験者に動機づける**か

触媒効果 Catalytic effect

- ▶ **教育を創造し高め、そして支えるような結果やフィードバック**が得られるか。それがその先の学習を推進する

容認可能性 Acceptability

- ▶ 利害関係者が**選抜方法と結果を信頼**できるか

A Practical Guide for Medical Teachers (5th ed.) pp 254, 2017
Med Teach. 2011;33(3):206-14

海外の大学入試

一次試験: 共通テストや高校時代の成績

- ▶ 米国 MCAT (Medical College Admission Test)
- ▶ 英国 UKCAT (UK Clinical Aptitude Test)
- ▶ 仏国 BAC (バカロレア Baccalauréat)
- ▶ 独国 TMS (Test für Medizinische Studiengänge)

二次試験: 個別学力試験は行わないのが一般的

- ▶ 面接や小論文が多かったが・・・



海外では様々な医学部入試が

- ▶ Aptitude Tests 適性試験
- ▶ Academic Records 学業成績
- ▶ Personal statements, essays and autobiographical submissions
自己紹介文, 小論文, 経歴
- ▶ References 推薦状
- ▶ Situational Judgement Tests (SJTs) 状況判断試験
- ▶ Personality assessment and Emotional Intelligence
性格検査と感情的知性
- ▶ Interviews and Multiple mini interviews (MMIs)
面接試験とMMI
- ▶ Selection centers セレクションセンター



Research Report. Identifying best practice in the selection of medical students (literature review and interview survey). GMC 2012.

レビューの結果から

- ▶ Aptitude tests 適性試験 △
- ▶ Academic records 学業成績 △
- ▶ Personal statements, essays and autobiographical submissions
自己紹介文, 小論文, 経歴 △ ~ ×
- ▶ References 推薦状 ×
- ▶ Situational Judgement Tests (SJTs) 状況判断試験 ○
- ▶ Personality assessment and Emotional Intelligence (EI) ?
性格検査と感情的知性
- ▶ Interviews and Multiple mini interviews (MMIs) △ ~ ○
面接試験とMMI
- ▶ Selection centers セレクションセンター △

▶ Research Report. Identifying best practice in the selection of medical students (literature review and interview survey). GMC 2012.

Situational Judgement Tests (SJTs)の例

Multiple choice format

You review a patient on the surgical ward who has had an appendicectomy performed earlier in the day. You write a prescription for strong painkillers. The staff nurse challenges your decision and refuses to give the medication to the patient.

Choose the THREE most appropriate actions to take in this situation

- A. Instruct the nurse to give the medication to the patient.
- B. Discuss with the nurse why she disagrees with the prescription.
- C. Ask a senior colleague for advice.
- D. Complete a clinical incident form.
- E. Cancel the prescription on the nurse's advice.
- F. Arrange to speak to the nurse later to discuss your working relationship.
- G. Write in the medical notes that the nurse has declined to give the medication.
- H. Review the case again

▶ Situational judgement tests in medical education and training: Research, theory and practice: AMEE Guide No. 100

Multiple mini interviews (MMIs)の出題領域

McMaster	Canberra	Calgary	Israel	Dundee
Eva et al.	Harris and Owen	Lemay et al.	Gafni et al.	Dowell et al.
Communication	Interpersonal skills	Empathy	Communication	Communication
Critical thinking	Giving Instructions	Advocacy	Handling stress	Critical thinking
Ethical decision making	Taking instructions	Ambiguity	Initiative and responsibility	Integrity
Knowledge of health care system	Problem solving	Collegiality	Self-awareness / maturity	Moral reasoning
	Ethics	Cultural sensitivity		Preparation + motivation
	Resilience/maturity	Ethics		Teamwork
	Enthusiasm	Integrity		
	Awareness of issues in medicine	Responsibility		
		Self - assessment		

▶ Research Report. Identifying best practice in the selection of medical students (literature review and interview survey). GMC 2012.

別のレビューでは

- ▶ There is evidence of the predictive validity of Medical College Admission Test (MCAT) for medical school and licensing examination performance. MCATは医学部および医師国家試験の成績に対する予測妥当性の根拠あり
- ▶ Interviews have not been shown to be robust selection measures. 面接は選抜方法として不安定
- ▶ Studies of multiple mini-interviews have indicated good predictive validity and reliability.
MMIは予測妥当性と信頼性に優れる

Assessment for selection for the health care professions and specialty training: consensus statement and recommendations from the Ottawa 2010 conference. Med Teach. 2011;33(3):215–23.

別のレビューでは

- ▶ Widening access to medical and health professional programmes is an increasing priority and relates to the social accountability mandate of medical and health professional schools. 専門職への門戸を拡大することの重要性は増しており社会に対する説明責任とも関連する
- ▶ While traditional selection measures do discriminate against various population groups, there is little evidence on the effect of non-traditional measures in widening access.

従来の試験は多様な集団を差別しているが新たな方法で改善できる
という証拠はない

Assessment for selection for the health care professions and specialty training:
consensus statement and recommendations from the Ottawa 2010 conference.
Med Teach. 2011;33(3):215–23.

